

第3巻発行可能

1時間目

三井物産 『森のめぐみと林業』



三井物産フォレスト(株) 平取山林事務所 細島 彩起子さん



三井物産(株) 環境・社会貢献部 対馬 洋平さん



環境出前授業

3月1日(火)、苫小牧市立北光(ほっこう)小学校で北海道エコ・アクションの「環境出前授業」が行われました。

参加したのは卒業式を間近に控えた6年生の児童48人と保護者の皆さん。

全国各地の社有林「三井物産の森」を守り育てている方々のお話を聞き、木育デザイナー・煙山泰子さんと一緒に

「木のタマゴ」を作りました。森への「気づかい」と暮らしの「木づかい」を学んだ1日は、小学校最後の良い思い出となったようです。

三井物産の森

三井物産が保有する森は全国74カ所、総面積約4万4千ヘクタール、その8割が北海道にあります。三井物産は林業を通してこれらの森を適切に管理するとともに、森林体験プログラムや社会貢献活動など多面的な活用も行っていきます。

1時間目の先生は三井物産の対馬洋平さんと、森を管理している三井物産フォレストの細島彩起子さん。日本是世界有数の森林大国ですが、森は手入れを怠るとどんどん荒れてしまいます。木材や紙、燃料、水や食糧、動物たちのすみかなど、さまざまな恵みをもたらしてくれる森を守る仕事、それが林業です。苗木を植え、雑草の成長に負けないように下刈りをし、枝打ちや適度な間伐を行うことで、太陽光が行き渡るようになり、大きくまっすぐな木を育てて伐採し、さまざまな形で暮らしに役立てる。50〜60年にも及ぶ林業のサイクルを繰り返すことで、豊かな森が未来へ受け継がれていくのです。子どもたちは伐採から丸太をつくる作業を一台でできる高性能林業機械「ハーベスタ」の映像やチェーンソーのレプリカにも興味津々。みんな今までは「木を切るのかわいそう」と思っていたようですが、適切な森林管理を証明する「FSC®認証」マークが表示された製品を選んで使う「木づかい」が森への「気づかい」になると知り、林業や木材加工への見方が変わりそうです。



授業を終えて

●苫小牧市立北光小学校 鈴木 照史校長

森を守るために木を使うことの意義を学んだ1日でした。私たちの暮らしは50年以上かけて育つ木によって支えられているんですね。子どもたちが木のタマゴにふれるたびにその喜びを思い出し、大切な森を次世代へ受け継いでいける大人になってほしいと願っています。



苫小牧市立北光小学校の6年生が「木づかい」を学びました!

授業を終えて

●PTA6学年委員長 桔梗原 未佳さん

目を輝かせて木の道具に触っていた子どもたちの笑顔が忘れられません。わが家の子どもたちもKEMさんの道具で育ち、使うほど味わいが増す木の魅力を肌で感じてきました。林業という仕事の意義を学べたことも、子どもたちの視野を広げる良い機会になったと思います。

2時間目

KEM工房主宰・木育デザイナー 煙山 泰子さん

『KEMさんの木育教室』



KEM工房主宰 木育デザイナー 煙山 泰子さん

1955年札幌生まれ。79年「KEM工房」を開設し、「子供たちが持つ子供だけの遊び道具をコンセプトに、木の道具や生活用品を制作している。子どもたちが木や森と主体的に関わる心を育む「木育」にも取り組んでいる。

2時間目の先生は木の道具や生活用品のデザインを手がけるKEMさんこと煙山泰子さん。木工を通して「木づかい」を学ぶ授業です。今回作る「木のタマゴ」はエンジン製。エンジンは「延寿」とも書き、長寿や魔除けのお守りにもなる縁起の良い木。この春葉立つ子どもたちへ、KEMさんからの贈り物です。

まずは木の表面を紙やすりで磨きます。「良い匂いがする」「ツルツルして気持ちいい!」と子どもたちは作業に夢中。砕いたクルミの油で表面を塗装すると驚くほど深い色とツヤが出て、あちこちで歓声が上がりました。ひも通し金具を付けてリボンを通すと、世界でひとつだけの木のタマゴが完成! KEMさんは、木に触れて厄よけを願うイギリスの風習「タッチウッド」を紹介し、「木に触れると不思議と心が安らぐもの。皆さんも木のタマゴをお守りとして大切にしてください」と締めくくりました。形を変えながら人に寄り添い続ける木の優しさを、子どもたちも肌で感じたに違いありません。

今できること、「考える」から「行動する」へ!

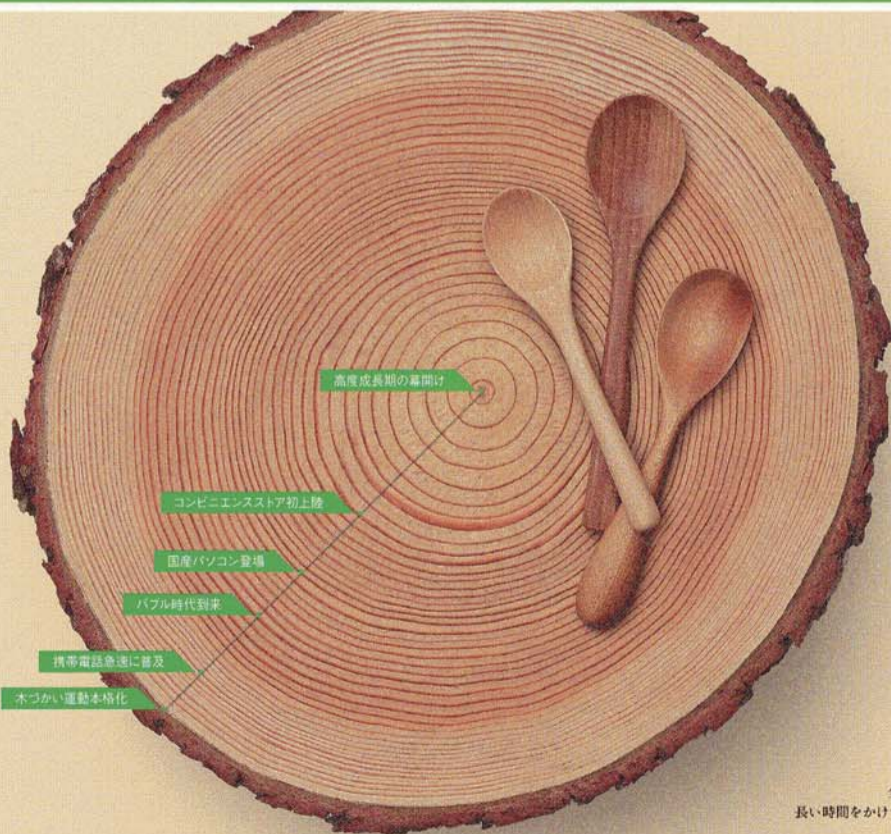
▶詳細はホームページへ <http://adv.hokkaido-np.co.jp/eco/> 北海道エコ・アクション 企画制作/北海道新聞社広告局

おじいさんたちが植えた木を、わたしたちが使う。わたしたちが植える木を、みらいの孫たちが使う。

日本の暮らしが、めまぐるしく変化したこの50年。いま、あらためて、木のぬくもりを思い返し、生活に取り入れて、自然を思いやる「木づかい」の毎日へ。何十年も前に植えられた木を、たいせつに使う。そして、何十年後かのために、あらたしく植える。それは、森林を代謝させ、健康に保ち、みどり豊かな国を受け継ぐことに、つながります。

三井物産は、次世代のことも考えながら、「植える」「育てる」「切る・使う」が循環する、持続可能な森づくりに取り組んでいます。

木のやすらぎと、森のめぐみを、次の世代へ。



高度成長期の頃に植えられたカラマツの切り株です。



全国70か所以上、約44,000ha。長い時間をかけて、大切に守り育てています。